

復興みなさん会 コミュニティ支援のあゆみ

- はじめに 2
- 仮設住宅内のコミュニティづくり 3
- 先進地への視察・研修 5
- 復興てらこ屋 7
- 集落単位の話し合いの場づくり、合意形成の支援 11
- 南三陸 椿ものがたり復興 13
- 暮らしの懇談会 ～復興公営住宅のコミュニティづくり 17
- 地域内外への情報発信活動 21
～語り部活動・南三陸復興まちづくり通信・復興マップの作成～



2013.3.30
西宮神社参道から
十日町方向を望む



はじめに

復興みなさん会は、東日本大震災により壊滅的な被害を受けた南三陸町において、被災した町民どうしの絆の再生やコミュニティの再構築が南三陸町の本質的な復興まちづくりに向けた大きな礎になるとの信念の下、仮設住宅単位や元の集落単位、新たにできる団地単位等、多様な形のコミュニティ活動を活性化して町の復興に資することを目的とし、町民有志が集い、2011年10月3日に設立されました。

復興みなさん会 設立趣意書

平成 23 年 10 月 3 日

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により壊滅的な被害を受けた南三陸町。市街地の大部分が津波により被災、多くの住民が住宅を失い避難生活や仮設住宅での生活を余儀なくされています。その過程の中で、これまで地域の暮らしを支えてきた人と人とのつながり、コミュニティの絆が大きく損なわれてしまいました。もともと同じ集落に住んでいた住民どうしがお互いどこに住んでいるのかもわからないといった状態が、現在では多くの地域で生まれています。

私たちはこのような現状を受け、住民どうしの絆再生や、コミュニティの再構築が南三陸町の復興に向けた大きな礎になるとの信念の下、仮設住宅単位や元の集落単位でのコミュニティ活動を再生していく活動を行うために集いました。

設立当初は何から手をつけてよいかわからないほど、課題が山積していました。課題が何かも把握できなかったと言ってもよいかもかもしれません。当初の活動の中心になったのは、当時、宮城大学地域連携センター地域振興事業部が配置していた 4 名の「復興まちづくり推進員」でした。自らも仮設住宅に入居してすぐの頃。自分たちが暮らす仮設住宅で起きていることを受け止め、一緒に暮らす町民の皆さんの声を丁寧に聴き取り、その中から課題を見出ししていきました。そのスタンスは、設立から 6 年半経った今でも変わっていません。

宮城大学による支援が 2013 年度に終了したことから、会を 2014 年 5 月に一般社団法人化、民間の立場から、南三陸町のコミュニティ再生に向けた活動を継続してきました。

この冊子は、私たちが震災後 7 年に亘って取り組んできた課題と、その解決のために試行錯誤しながら進めてきた活動内容を、時系列に沿って整理したものです。今回のような大規模災害が起きたときに、何ヵ月後・何年後にどのような課題が生まれてきて、その解決のきっかけはどこにあるのか。私たちの取り組みは、その 1 つの例にすぎませんが、後世に何かのヒントが残せれば、という思いからまとめたものです。

震災から 7 年が経過しましたが、被災地に残された課題は、まだまだ大きいものがあります。震災前から潜在化していた課題が表出してきた面もありますが、震災がなければ数十年かけてじわじわ起きてきたであろう出来事が、数年の単位で圧縮されて押し寄せてきているのが現状です。私たちの活動はまだ続きます。これまでの全国からのご支援に感謝申し上げますとともに、これからも南三陸のことを忘れず、寄り添っていただくことを切望し、発刊の挨拶といたします。



設立直後のミーティングの様子
2011.11.1 上山八幡宮社務所内

2018 年 3 月 11 日
一般社団法人復興みなさん会
代表理事 後藤 一磨

